トラック輸送企業のスタンスを聞く

㈱啓和運輸（埼玉）を訪ねて

トラック・バス用タイヤの主要な需要先の一つであるトラック輸送企業は、人手不足やコスト削減等厳しい環境の下、各社独自の戦略を活発に展開している。埼玉県入間市の啓和運輸は、関東一円を営業エリアに約870台のトラックを保有、展開する実力企業だ。同社の片桐淳一・常務取締役経営管理本部長に、啓和運輸成長の経緯や、タイヤに対する率直な見方について聞いた。（堀川）

本社社屋（左）ときれいに整理された物流センター

啓和運輸の前身は、1964年に創業された「啓和自動車整備工場」という整備工場だ。その後1979年、入間市に運送業の㈱啓和運輸が設立されスタート、現在に至る。

川島満社長は2代目として、就任以降堅実な経営で順調に業績を伸ばしている。

片桐淳一常務に川島満社長の経営哲学、経営方針を聞くと、『どんな時にも顧客から頼られる会社として、100年先にも顧客に選ばれる存在であること。そして従業員の「夢・希望」が実現できる会社であること』と教えてくれた。

運輸企業としての考えを率直に語ってくれた片桐常務

◇

―御社の強み、特徴を教えて下さい

『関東一円に営業所を持ち、車両を展開しています。そして、お客様の繁忙期に対しても、閑散期に対しても対応できる体制をとっていることです。またドライバー個々の対応力が高い点です』

―御社は「フリー運行率」が高いと聞きましたが、どういう運行システムなのでしょうか

『定期の仕事でも、ドライバーを固定せずフリーにして、例えばそれが3人（3台）の仕事であれば、翌日には別の人が交替する。反対の見方をすれば、1人が常時幾つかの仕事を受け持ってやっているイメージです。

そうすることで、急にスポットで台数が必要になっても、逆にキャンセルになった場合も、柔軟に機敏に対応できるのです』

―安全運行の取り組みとして「セーフティセンター」と「ケイワアイシステム」等がありますが、どんなセンターなのでしょう

『セーフティセンターは、特定の運転適性診断や一般適性診断などが社外の方でも受けることができるシミュレーターなども設置してます。また、センターでは「KEIWA EYE SYSTEM」を使用した全車両の24時間運行状況管理をしています。

急発進や急停車などの異常を感知し、分かりやすくいうと、GPS機能とドライブレコーダーが融合してリアルタイムで確認できる様なシステムです』

―タイヤの管理なども含まれますか？

『システムにタイヤ管理は含んでおりませんが、わが社は「燃費のいい運転・タイヤを減らさない運転→安全につながる」という信念で安全とタイヤ・燃費についてこだわりをもって取り組んでいます』

独自の運行システムが強み

中国製タイヤも試験導入

―低燃費タイヤについては？

『運転の仕方によって、何処を走るかによって、同じタイヤでも変わってきますから、それほど最重視はしてません』

―タイヤの経費というのは、トラック維持費全体の何%位を占めるのでしょうか

『一括りには言えないです。タイヤやオイルについては、逆に1台分のタイヤやオイルの経費をキロ単価にして考えることはありますね』

―これまで、どんなタイヤブランドと契約されたのでしょうか

『ご縁があって、ダンロップさんとTOYO TIREさんとお付き合いしてます』

―定期的に入札などされているのでしょうか？

『特にしていません。長くお付き合いしている仕入れ先ですから、できればこれからもお付き合いしていけたらと思います。突然、購入先を変えるようなことはしません。

今回、テスト的に中国タイヤ（チャオヤンタイヤ）を入れたのですが、2社には連絡をしております』

―チャオヤンタイヤは、大阪の㈱ヨロズ物流が運営するチャオヤンジャパンのTB用ブランドですね。採用はどういう経緯で？

『物流関係の専門紙の広告を見てこちらからアクセスしました。当面は自社で交換できる営業所のみですが、サービス体制が充実すれば今後シェアが増える可能性もあります。

まだテスト導入をして間もない段階なので、コスト効果や特に感じた感想もこれからかなと思います』

洗車中の新しい大型車両。ピカピカに光っていた

―タイヤに関するソリューションについて。リトレッドタイヤや、TPMSなどへの関心は如何ですか

『リトレッドは一部採用しています。もっと性能を上げて欲しいですね。TPMSについては、価格によって考えます』

―トラックのEV化、自動運転化についてのお考えは

『世界的にはEV化は進んでいくと思いますが、現段階では、走行距離にしても我々の使用に耐えるものにはなってません。そうなれば考えますが』

―御社はタイヤ整備に関しては自家整備が多いのでしょうか

『所沢、東京には自社整備センターはありますが、基本はディーラー整備です。わが社の整備関係者は、整備管理者を除いて10名弱です』

―今年に入って、人身事故を伴う大型車両の車輪脱落事故が重なりました。御見解をお聞かせください

『歩行者、自転車、乗用車などと一緒に、道路を使用させて頂いて仕事をしているプロとして、一般の人を巻き込むなど言語道断だと思っています。

わが社では、1月の渋川の事故が起きた直後に、日常点検はもちろんですが、ハブボルトやナットの錆のチェックや給脂、緩みなどの総点検をしました』

―最後に、ドライバー不足、整備士不足と言われていますが、御社では如何でしょうか

『本社周辺では、募集に対しほぼ計画通りに応募があり、採用していますが、地域によってドライバー不足は確かに感じます。

わが社は同業で働いている方、異業種の方からも「魅力のある会社」でありたいと考えておりますし、働き手が辞めない会社でありたいと思いながら、彼らと相対しています。幸い1年以上経ってからの離職率は低くなってます』

―本日は、有難うございました。

㈱啓和運輸

- ▷代表取締役　川島　満（57歳）
- ▷本社所在地　〒358-0033　埼玉県入間市狭山台18-1
- ▷TEL/FAX　04(2934)6560/(2934)5653
- ▷設　立　1979年（創業1964年）
- ▷営業所　関東甲信に愛知、大阪、岐阜も含む37ヵ所
- ▷社員数　約1300名（グループ全体）うち、ドライバー900名弱
- ▷総車両数　870台
- ▷売上高　約140億円（20年9月期）
- ▷グループ　㈱啓和ハーベスト（人材派遣業務請負当）㈱たすかる（保険、旅客等）フレスク㈱（太陽光発電等）